一般用語 (注1)

外軸筋
旋[の]
副[の]
内軸筋
(2.2)
輸入[の]
付着[の]
集合[の]
翼/翼状[の]
白[の]（注1）
白[の]（注1）
胎/胎[の]（注4）
膨大/膨大部/膨大
[の]:膨大部[の]（注5）
吻合/吻合[の]
角/角[の]（注6）
ワナ
洞（注7）
輸/輸[の]（注8）
口（注2）
尖/尖[の]
健膜/健膜[の]
突起/骨突起
器（注9）
垂/垂[の]（注10）
水管/水道
弓/弓状[の]
野/区
立筋
動脈/動脈[の]
細動脈/小動脈
関節/関節[の]（注11）
上行[の]
房:前房（注12）
自律[の]
輪/輪[の]
底/底[の]（注13）
二瀦[の]
分岐/二分/分岐[の]
二分[の]
羽状[の]

[胸/胸[の]
短[の]
球/球状[の]（注14）
胞（注1）
包/囊（注15）
盲管/盲管[の]
盲[の]
杯
房（注12）
小管（注16）
管（注17）
小頭
包/被膜/囊[の]
被膜[の]:囊[の]（注15）
頭
軟骨/軟骨[の]
丘:小丘（注18）
尾/尾状[の]
洞/海綿状[の]（注7）
窩:窩（注19）
蜂巢
中心:中核/中心[の]
中核[の]
頭/頭[の]（注20）
交叉/交叉[の]（注21）
索（注22）
灰白[の]（注23）
帯
輪/輪[の]（注8）
環状面
回旋[の]
槽
側副[の]
丘:小丘（注18）
頭（注20）
往
伴行[の]
交通/交又[の]
経[の]
裂[の]（注15）
陥[の]
複合[の]
甲介/甲介[の]
網/網状[の]
交又
結合線
結合
収縮筋
曲[の]（注24）
円錐/円錐[の]
曲[の]（注24）
間膜
角/角質[の]（注6）
冠/冠状[の]
体
小体
靭筋
皮質/皮質[の]
大[の]:大[の]
細状[の]
稜
十字[の]
脚/脚[の]（注25）
立方[の]
線/線形[の]
頂（注26）
彎曲
尖/尖[の]
皮[の]:皮膚[の]
交又（注21）
三角[の]（注27）
齦/齦[の]:齦状[の]
下頸筋
下行[の]
経
隔膜/隔膜[の]
骨幹
二腹[の]
指/指[の]:趾[の]
趾大筋
円板
憩室
背/背側[の]
小管（注16）
管（注17）
線[の]
輸出[の]
弾性[の]
楕円[の]
隆起（注28）
導出[の]
小骨
口豆[注2]
卵円[の]
椎状[の]
愛状[の]
乳頭[の]
副交感[の]
実質
室／壁側の]
部[注49]
小の[注47]
節／椎状の]
脚／膚の][注25]
透明の]
盤／盤の]
貫通の]
有孔の]
未梢の]
垂直の]
足
梁状の]
平面の]
囊
ヒダ：樋
含気の]
極
円[注16]
部[注49]
孔
一次の[：原始の[の]
第一の[の]
主の]
主の]
突起
隆起／隆起の][注28]
岬角
回内筋
固有の]
隆起[注28]
鎖／鎖の][注44]
点
鋸体／鍬体の]
四角の]
三角の]
四角の]

第四の]
第五の]
枢／枢状の]
根／根の]
枝
鍵
節
節円[注29]
直の]
反回の]
反転の]
部
呼吸の]
細
細様の]
支帯
反屈の]
囊状の]
第210部[注50]
吻／吻側の]
回旋筋
円の][注51]
赤の]：赤色の]
囊／囊状の]
血：血液／血の]：血液の]
随
舟／舟状の]
断面
二次の]
第二の]
区：区域／区の]：区域の]
半月の][注41]
感覚／感觉の]
中隔[注55]
中隔／中隔の][注53]
囊の]：囊状の]
錦段の]
種子の]
S状の]
基の]
前[注7]
骨格：骨
獨立の]
小柱：柱：梁柱
路
菱形[の]：僧帽筋[の] [注50]
菱形[の]：台形[の] [注50]
三角[の] [注27]
三角[の]
三頭[の]
三角 [注27]
転子
滑車／滑車[の]
車軸[の]
幹
管／管[の] [注17]
隆起／隆起[の] [注28,48]
結節 [注48]
基面
細管
膜：層 [注45]
鈎／鈎状[の]
尿生殖[の]
垂 [注10]
鞘／鞘[の]
谷
郭／有郭[の]
弁 [注17]
弁 [注17]
脈管：管／脈管[の]：管[の]
広[の] [注49]
帆
靜脈／靜脈[の]
腹
室／室[の]
細靜脈：小靜脈
頂 [注26]
囊／囊状[の] [注52]
囊；胞／胞状[の] [注52]
前庭／前庭[の]
頭跡
絨毛
ヒモ [注55]
内臓[の] [注54]
声[の]
渦／渦状[の]
帯／帯状[の]
一般用語の注

注1 一般用語は、TAには含まれていないが、BNA以来の解剖学用語に収録されてきた。本用語集の一般用語は、「日本語による解剖学用語」に掲載された一般用語およびその注をもとに、本用語集に収録されている用語との整合性に留意してランク用語のアルファベット順に配列した。名詞については、ランク用語の属格を( )内に付記し、ランク用語と英語の語頭を大文字で表記した。形容詞については、日本語に'の'を付し、ランク用語と英語の語頭を小文字で表記した。名詞から派生した形容詞がある場合は'の'の後に表記した。

注2 Osium は扁平した臓器や管の開口・入口を示し、口(入口)Aditus は空洞、管への入口という意味で両語はほぼ同義。一方、口(開口)Apertura は、どちらかといえば洞、管などからの出口を示し、前者とは用法が異なる。

例: 大動脈口Osium aortae, 喉頭口Aditus laryngis, 頚形骨洞口Apertura sinus sphenoidal。　

注3 本[の], albicans, 白[の] albagineus, 白[の] albus があり、すべて「白い」の同義語。用法により使い分ける。

例: 体骨Corpus albinac, 白腐Tunica albuginea, 白質Substantia alba。

注4 Bulpa, 胸Alveolus はほぼ同義。用法により異なった表現となる。

例: 被骨Bulla ethmoidalis, 顔面Alveoli pulmonis。

注5 大Intumescencia は充実器官の膨大・増殖を、一方、膨大Ampulla は管の囊状の拡張を示す。

例: 大顕Intumescencia cervicis, 直腸膨大部Ampulla recti。

注6 角Cornus は角張った構造の総称である。例: 角角Cornus anterius。

注7 角Angulus は角張って突き出ている物または部分を指す。例: 下頜角Angulus mandibulae。

注8 Sinus は組織、骨、血管などの内部に拡張した空洞。また溺Antrum はほとんと閉鎖された骨壁を有する空洞をいい。溺Caverna は骨組織の小胞をもつ空洞の意味。前二者はほぼ同義に用いられることがある。

例: 冠状動静脈Sinus coronarius, 眼窩溺Antrum mastoideum, 尿道海綿体溺Cavernae corporis spongiosi。

注9 腕Orbiculus は円形または円盤状の構造を示し、腕Anulus は内容物を周囲から取り囲む線をつくるもの構造を示す。前二者はほぼ同義。

例: 毛球体構Orbiculus ciliaris, 血管輪Anulus fibrosus, 大脳動脈輪Circulus arteriosus cerebri。

注10 Apparatus は、ある機能の遂行に関与する群、管、血管などの解剖学構造の集合体であり、一方、器管；器Organum は1つの機能の遂行に関与する解剖学的構造体である。

例: 脳Apparatus lenticularis, ウッソル器Organum spirale。

注11 頭部Appendix はぶんが付いた付属物、特に骨を進階させる構造。一方、頭Uvula は下垂した肉塊、特に下顎骨を進階させる付属物。

例: 肉付Appendix vermiciformis, 口垂Uvula palatina。

注12 件関節Articulatio は2本以上の骨の結合部を示し、多くの結合部の総称。一方、関節[の]glenoidalis は肩関節の構成に参加する肩甲骨の関節凹を示す関節面Cavitas glenoidalis としての用法に限定される。

注13 眼Camera は眼窩のようすすべての室、腔をいい、眼Atrium は数個の小室または通路つながる室、空洞を指す。

例: 眼窩Camerae bulbi, 眼球房Atrium sinistrum。

注14 底Basis は構造物の下部、基底部をいい、底Fundus は養または中脳器の下部(底)あるいは眼口部(出口)から最も遠い部分を指す。

例: 眼底Basis cranii, 子宮底Fundus uteri。

注15 球状[の] spheroides, 球形Bulbus があり、いずれもほぼ同義。

例: 深着球外音Globus pallidus lateralis, 球関節Articulatio spheroides, 頭球Bulbus oculi。

注16 咀Bursa と包: 咀囊Capsula とがあり、ほぼ同義。臨床面では、包よりは咀囊が使用される。
ている（昭33）。

例1: 腸骨棘の滑液包 Bursa tendingis calcanei, 線維被膜 Capsula fibrosa.

例16: 小管 Ductus と管 Canalculus は、それぞれ管 Ductus と管 Canalus の指小部である。注17 参照。

例17: 管 Canalus は周囲組織の壁で囲まれる管で、管 Ductus は固有の独立した管壁をもつ管であり、また管 Tuba はまっすぐな管という。

例18: 脊神経管 Canalis nervi hypoglossi, 脊管 Ductus thoracicus, 耳管 Tuba auditiva。

例19: 丘 Mons は表面の一部を覆う隆起またはわずかな高まり、丘: 丘 Caruncula は小肉塊の隆起またはそれに類似するもの。また、丘: 丘 Colliculus は周囲部分から突出上がった小隆起を示す。後者はほぼ同義。

例20: 舌 M. lingualis, 唾液管 Ductus salivarius, 嘔吐管 Ductus pyloricus, 胃管 Ductus gastricus, はほぼ同義。

例21: 骨の関節窩 Fossa articulares, 骨結節 Tuber ischiadicum, は同義。また、骨の関節窩 Fossa articulares, 骨結節 Tuber ischiadicum は附着あるいは骨折の関節窩 Fossa articulares, 骨結節 Tuber ischiadicum, は主に同義。

例22: 三角 Trigonum sphenoidale, 頭部の三角 Trigonum sphenoidale, はほぼ同義。

例23: 三角 Trigonum sphenoidale, 頭部の三角 Trigonum sphenoidale, は同義に使用される。

例24: 前庭 Tuba auditiva, 左右耳 Tuba auditiva, とそれぞれ指小管は、内耳の管を指する。耳管 Ductus vertebrae, 腸管 Ductus vertebrae, は同義。

例25: 腹 Membrana peritonei, 腹壁の筋 Membrana peritonei, は同義。

例26: 眼窩 Excavatio orbitae, 眼窩 Excavatio orbitae, はほぼ同義。

例27: 角膜頂 Vertex corneae, 角膜頂 Vertex corneae, はほぼ同義。

例28: 指小管 Ductus vertebrae, 腸管 Ductus vertebrae, は同義。

例29: 腹壁の筋 Membrana peritonei, 腹壁の筋 Membrana peritonei, は同義。

例30: 腸管 Ductus gastricus, 呕吐管 Ductus pyloricus, 胃管 Ductus gastricus, は同義。
す。両者はほぼ同義。

用例: 大脳横裂 Fissura transversa cerebri, 声門裂 Rima glottidis。

注31 ミロブスは裂け目や結合組織中隔などで区別される組織の1区分をいう。葉デリウムは広くて薄い葉状構造をいう。

用例: 大脳葉 Lobi cerebri, 声門裂 Folium vermis。

注32 小窩 Fossa と小窩 Fovea は、それぞれ小窩 Fossa と小窩 Fovea の指小辞である。注19 を参照。

注33 小窩 Zonula と小窩 Frenulum はほぼ同義。

用例: 毛細血管帯 Zonula capillaris, 吐小窩 Frenulum linguae。

注34 小窩 Glomerulus, 赤球 Glomus と小窩 Glomus ともに小さな球状体を示す同義語。

用例: （耳）Exulcrum Glomeruli, 聴動脈小窩 Glomus caroticum。

注35 洞孔 Hiatus は大きく開いた裂け目を指し、一方、裂孔 Lacuna は小さい空洞、くぼみを意味する。

用例: 仮仮孔 Hiatus saphenus, 血管裂孔 Lacuna vasaorum。

注36 背 Hilum, 背 Porta とも器官のある部分で、神経、血管、導管などの出入りする場所を示す。用法で異なる。

用例: 背門 Hilum renale, 肝門 Porta hepatis。

注37 背 Liquor と背 Humor があるが、ほぼ同義。

用例: 脳脊髄液 Liquor cerebrospinalis, 血液 Humor aqooxus。

注38 背 Labium, 背 Labrum ともに脛の形をした構造の名で、ほぼ同義。ただし前者は関節周辺に限定する。

用例: 下唇 Labium inferior, 関節唇 Labrum articulare。

注39 背の latus と広の vastus はほぼ同義。人体部位を表す語として関節唇 Labrum がある。

用例: 子宮広間膜 Lig. uteri, 外側広筋 M. vastus lateralis。

注40 鋲 Limbus, 鋲 Margo ともに体のある部分の「ふち」、または他の部分との「境界」を表す用語で、ほぼ同義。

用例: 鋲 Limbus corneae, 液骨縁 Margo lacrimalis。

注41 半月 Lunula, 半月 Meniscus, 半月の semilunaris のいずれも半月の同義語だが、構造物の形状が相異なることは表いている。従って、同じ半月状構造でも用法により使い分ける。

用例: 半月弁半月 Lunula valvulorum semilunarium, 関節半月 Meniscus articularis, 半月線 Linea semilunaris。

注42 大の magnus は、大きさや数が大きいという意、その比較級が大のの major で、小のの minor に対応する。その最上級が最大のの maximus で、最小のの minimus に対する。

用例: 大転子 Trochanter major, 大内転筋 M. adductor magnus。

注43 （NA6）では mammilaris （用例: Corpus mammilare など）と表記されたが、（TA）で mammillaris （用例: Corpus mammilare など）と改められた。

注44 腕の Mediaulada は、骨、内臓神経、多くの内臓に用いられる。腎 Pulpa は臓と肺臓に用いられる。

用例: 腕骨束: 腕束 Medullula oblongata, 腎束 Pulpa dentis。

注45 體 Membrana はシート状のものを指し、膜: 膜 Tunica は数多の膜の一部を指す。

用例: 前観 Membrana synovialis, 息膜 Tunica mucosa。

注46 中間の meso- は居間語であり、しばしば間隔（例: 球間隔 meso-ovarium）という意味に多く使用される。

注47 小の parvus は大きさや数が小さいという意、その比較級が小のの minor で、大のの major に対する。その最上級が最小のの minimus で、最大のの maximus に対する。

用例: 小転子 Trochanter minor, 小内転筋 M. adductor parva。

注48 外: 結節 Nodus はリンパ節のような限定された組織塊に対する名称。また結節 Tuberculum は骨、筋、組織などにみられる局所的な囲い円形のつままりを示す。概して、大きいやや不均一な小突きを示す Tuberculum とした。

用例: リンパ節 Nodus lymphaticus, オトガイ結節 Tuberculum mentale。

注49 結 Portio は限定された場所を指す。一方、結 Pars は同じ定義された場所を示しながら、前者よりはやや広がりを持つ概念。
用例： 腹部 Portio vaginalis cervicis, 胸骨部 Pars clavicularis。

は、この筋の古くよりの M. cucullaris に対応する。M. trapezius の直訳は「菱形筋」である。
用例：菱形筋 Fossa rhomboidea, 大菱形骨 Os trapezium, 菱形靭帯 Lig. trapezoideum。

注51 円 [の] rotundus, 円 [の] teres ともにほぼ同義。用法により異なる。
用例：正円孔 Foramen rotundum, 肝円索 Lig. teres hepatis。

注52 壇 Vesica は膨張可能な筋性の袋を指し、囊 Vesicula はその指小辞で小さな袋を指し、また囊 Saccus
は結合組織からなる非膨張性の袋を指す。
用例：壇 Vesica fellea, 精囊 Vesicula seminalis, 内リンパ囊 Saccus endolymphaticus。

注53 中隔 Septulum は、中隔 Septum の指小辞である。

注54 内臓 [の] splanchnicus, 内臓 [の] visceralis とするが、両者はほぼ同義。

注55 線 Vinculum は小さな帯状または腱状の構造を示し、線 Vincula はより広義の帯状の構造を意味
し、ほぼ同義。用法により異なる。
用例：腱の線 Vincula tendinum, 線腸線 Taeniae coli。

注56 膜 Tectum と蓋 Tegmen はほぼ同義。
用例：中脳膜 Tectum mesencephali, 鼓室蓋 Tegmen tympani。

注57 弁 Valvula は、弁 Valva の指小辞である。